

魚の漢字を見ると、なぜ、おなかが空いてしまふのでしょうか。春にとれるから春告魚（ニシン）、秋にとれるから秋刀魚（サマ）、雪の季節にとれるから鱈（タラ）——なんて、眺めているだけで、季節の便りをもらったような気がします。日本は、古くから魚介とともに生きてきた国。数の子は子孫繁栄、「昆布はよくござる」の語呂合わせ、「帆立」は帆を立てて進む船のように、順風満帆を願う縁起もの。

長い年月のあいだに、人の願いが声になり、漢字になり、その言葉が、魚たちを海から届く「幸」にしてきました。

こうして一年、どうかたくさん口にしてください。海の幸には、味わい深い、日本人の幸せがあります。

